H20健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会　フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

・達成度の低い利用間伐の事業量を確保するため、森林組合だけでプロジェクトを遂行するのではなく、県・町等との協力体制の構築に努めて下さい。
・今年度の施業履歴（時期、場所、内容、規模等）と環境への影響結果を評価基準にするとともに、今後、経験値と観測データを付き合わせて蓄積させることにより、環境に負荷を掛けない揖斐地域における施業基準・指針の構築に努めて下さい。

◆成果に関するアドバイス

・木材生産の拡大を図るため、森林組合への技術蓄積を目的に、年間5～10km程度の作業路開設、及び3,000㎥程度の木材生産の実施を目標に取り組んで下さい。
・森林土壌の過度な圧縮を避けるため、高密な路網開設とのバランスを図りながら、ハーベスタの林内進入頻度並びに作業コストを低減させる検討（適切な作業手順の決定・遵守）を行って下さい。
・施業後の林内に劣勢木が少なからず散見されるため、選木技術の向上に努めて下さい。
・緩傾斜地においては、雨水の滞留による立木の水腐れを防止する観点から、林内全体へ分散排水するのではなく、必ず近隣水路まで導水路を設置することに留意して下さい。

◆効率性に関するアドバイス

・自然に負荷を掛けない道づくりを進めるため、安易にスイッチバックを採用することなく、地形が安定した場所を選んでヘアピンカーブを設置するとともに、人工林の位置（トラックが走行可能な一般道との距離等）によって道づくりの考え方が異なることを理解し、さらには、トータル延長が出来る限り短くなる路線選定を検討して下さい。
・小規模分散な森林の所有状況下における作業路開設では、今後の森林管理の省力化を念頭に、可能な限り所有境界線上に線形設置を心がけるようにして下さい。
・腐植土層がほとんど確認できなくなった人工林地においては、土壌が硬く広葉樹の進入・活着が期待しにくいことから、今後も人工林として適切な管理に努めて下さい。
・地域との繋がりを重視した属人的な施業集約化体制から、組織的な体制へと変革・強化するため、施業集約化に必要不可欠な営業マンの速やかな増員に努めて下さい。

◆妥当性に関するアドバイス

・プロジェクト実施により判明した当初計画内容の不備事項（森林の所有形態や森林所有者の意向、林業採算性に配慮した森林資源の把握、その他各種法規制等々）への対応を踏まえ、今後の円滑なプロジェクト遂行に留意して下さい。

◆発展性に関するアドバイス

・森林所有者の理解促進と満足度向上によりプロジェクト遂行を拡大・充実させるため、有望な事業地の早期確保・事業着手を優先するとともに、森林所有者に対する積極的な普及啓発（成功事例に関するコマーシャル等）に努めて下さい。

◆総括に関するアドバイス

・組織的な施業地の集約化による一体的な地域森林の管理はもちろん、後年度に必要となる行為（森林所有者による軽トラックでの走行、次回の木材生産活動等々）を十分に検討した、自然に無理のない林業経営に資する道づくりを期待します。

◆フォローアップ委員会の開催状況

平成20年12月26日

日　　時：　平成20年11月27日（木）
場　　所：　揖斐川町谷汲地内
参加委員：　三島 喜八郎　（社）岐阜県森林組合連合会　代表理事副会長
　　湯浅 勲　　日吉町森林組合　理事兼参事
　　篠田 成郎　　岐阜大学総合情報メディアセンター　教授
対　　象：　揖斐森プロ（揖斐郡森林組合）

プロジェクトの概要説明

施業後の林分

必要最小限の伐開幅

「作業路の線形設定」について
アドバイス

「将来施業等を想定した道づくりの必要性」についてアドバイス

「腐朽で路体崩壊が危惧される構造物」の改善点についてアドバイス

「緩傾斜地における排水対策」
についてアドバイス

「森林土壌の観点から今後の施業方針」についてアドバイス

H20健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会
委員長　　三島　喜八郎